

開校80周年を迎えて

校長 館岡 靖哲

新緑が光に輝き、生徒の笑顔がいつそう映える季節となりました。新学期が始まり1か月が経とうとしています。生徒たちの日々の姿を見ていると、新しいクラスや担任、友人にも少しずつ慣れてきて、落ち着いた雰囲気です学校生活を送ることができています。5月22日（金）には、体育祭が予定されており、体育の授業では体育祭に向けた練習が始まっております。熱心に練習に取り組む様子を見ていると、生徒が主体となってどのような体育祭を創り上げてくれるのか、本当に楽しみです。保護者・地域の皆様のご来場もお待ちしております。

ところで、本校は今年度、開校80周年を迎えました。『学校沿革誌』を見ますと、次のような記述があります。

昭和22年 4月 1日 与野町立与野中学校創立。

与野第一小学校校舎の一部を仮校舎として授業開始。

昭和22年 5月15日 校章を制定する。

昭和23年 4月 1日 校舎不足のため、与野高等学校校舎一部を教室として借用する。

昭和23年11月25日 館山元海軍砲術学校校舎を買い受け、与野町下落合957番地に木造2階建て9教室、ならびに附属建物の建築竣工。

昭和30年 4月 1日 校名を与野町立与野東中学校と改称する。

昭和30年当初の学校の様子については、私の叔父が中学校の教員として勤務を始めた頃で、当時のことは、何度か話を聞いたことがあります。その中で、記憶に残る話を紹介いたします。

昭和30年頃、叔父は現さいたま市西区の中学校に数学の教員として赴任しました。サッカー部の指導を頼まれ、戦争中は畑だった校庭を生徒と共に整備して活動していたそうです。学校にはサッカーボールが1つしかなく、体育の授業や休み時間のサッカーも含めて、全校生徒が1つのボールを大切に扱っていたそうです。また、当時は下駄で登校していた生徒も多く、運動靴を持っている生徒は少なく、サッカーの大会では、運動靴を貸し合い、片足は靴、片足は裸足で試合に臨んだそうです。また、食糧難のため、給食のパンを家庭に持ち帰り、家族で分け合って食べていた生徒も多く、教員も含めて空腹が日常的であったそうです。そのような状況でも、生徒は笑顔を絶やさず、学校は活気に満ちていたとのことでした。

本校設立当時は、終戦直後の混乱期でした。誰もが生きていくことに精一杯の中で、国の未来を子どもたちに託し、学校の創立に向けた関係者の御苦労、御努力は、私たちには想像もできないものです。子どもたちに託した想いは、本校の校歌にも表現されています。

『若者よふるい立て立て （略） 生産の国をつくろう 新しい国の夜明けだ

若者よ希望を持て持て （略） 美しい国をつくろう 若者は国の命だ』(校歌より抜粋)

80年の歴史が詰まる、手書きの学校沿革誌を片手に学校だよりを作成していますが、本校の沿革を知れば知るほど、校長として身が引き締まる思いです。